



創立の背景と歴史

創立者のフローラ・ベスト・ハリスは、アメリカ合衆国ペンシルバニア州ミートビルに4人姉弟の長女として生まれました。幼いころから病弱で、何度も大病を患うほどでしたが、いずれ自分も海外伝道に行きたいという希望を持っていましたので、なぜハリスと結婚したかと尋ねられると「彼が海外伝道を志していたからです」とユーモアを交えて答えるほどでした。フローラは、アーヴィング大学を特別優等生として卒業後、23歳でハリスと結婚。ハリスがアメリカ・メソジスト教会最初の日本宣教師の一人に決まったことで、念願の夢が叶い、1874年(明治7)1月に函館に到着しました。1877年(明治10)ハリス夫人は、出産のために一時帰国。12月に娘のフローレンスが生まれますが、家族三人で日本に戻る船の中でフローレンスは病気で亡くなってしまいます。大きなショックを受けたにもかかわらず、二人は試練を乗り越え、再び日本での伝道に戻りました。

英文学をたしなみ、詩作もするハリス夫人は、日本文学にも造詣を深め、特に自分と同じく娘を亡くした傷心の思いを綴った紀貫之の『土佐日記』に強く心を動かされ、英語に翻訳して欧米に紹介しています(1881年〈明治14〉頃)。

夫妻は、札幌農学校の学生たちにも大きな影響を与えました。特に2期生の内村鑑三や新渡戸稲造は、留学のためにアメリカを訪れた際に、ハリス夫人の実家を訪れています。1884年(明治17)ハリス夫人は病気のために帰国していましたが、二人の相談に乗り、滞在させて世話をしました。そこから内村はアマースト大学へ、新渡戸はジョンホプキンス大学へと進学しています。1期生でのちに北海道帝国大学(当時)の初代総長になった遺愛学院初代理事長の佐藤昌介も、留学中、たびたびハリス夫人の元を訪ねています。

寄宿学校の下地を整えるために、1878年(明治11)アメリカからミス・ブリストという女性教師が派遣されました。初代校長にはミス・ウッドウォースが就任しましたが、結婚のため翌年帰国。2代校長にミス・ハンプトンが、3代校長にミス・ヒューエットが就任し、わずか5年の間に3人も校長が変わりました。

のちに35年余の長きにわたって遺愛に在職し、遺愛のみならず函館の教育に大きな影響も与えた、ミス・デカルソン(1859～1946年)がアメリカ・フィラデルフィアから着函したのは、1889年(明治22)のことです。翌年、4代校長に就任したミス・デカルソンは、現在の函館盲・聾学校の設立にも尽力しています。当時、毎年行なわれたスズラン狩遠足は、この時代に始まり、これまでスズランを愛でる習慣のなかった日本人に、この花の愛らしさを広めたのはミス・デカルソンであるといわれています。ミス・デカルソンはまた、三大精神「信仰・犠牲・奉仕」を根づかせ、遺愛学院の礎を築きました。

1903年(明治36)学校の発展に伴ない、当時、湯ノ川通りといわれた現在地に広い校地を求め、新校舎の建築を始めました。1907年(明治40)の函館大火で旧校舎が焼け、新校舎と寮及び、宣教師館(通称ホワイト・ハウス)が完成しました。宣教師館と本館は、国の重要文化財に指定されています(それぞれ2001年〈平成13〉と2004年〈平成16〉)。



創立者 Flora Best Harris (1850～1909年)
内村鑑三に「人の善いところを見つけ、それを見放さない力を持っていた」と評されました。



創立

遺愛学院の歴史は1874年(明治7)から始まります。開港以来、さまざまな異国文化を導入してきた北海道・函館に、アメリカ人宣教師夫妻が着任しました。札幌農学校(北海道大学の前身)の第1・2期生に洗礼を受けたM・C・ハリスと夫人のフローラ・ベスト・ハリスです。(右ページ写真)

ハリス夫人は、ようやく近代化の兆しを見せる日本の情勢を見て、女子教育と幼児教育の必要性を強く感じ、元町の地に「Day School: 日日学校」を開きました。これは、生徒が自宅から通う昼間の学校のことで、最初は生徒5人で始まりました。

ハリス夫人はまた、女子教育の一層の充実を願って、「Boarding School: 寄宿学校」の開校を願いました。アメリカのメソジスト・エписコパル婦人外国伝道協会機関誌に寄稿したところ、当時ドイツ駐在アメリカ公使夫人のカロライン・ライト夫人を中心に多額の寄付が集まり、これをもとに1882年(明治15)北海道初の文部省(当時)認可の女子校として「カロライン・ライト・メモリアル・スクール」が同じ敷地内に開校されたのです。

現在の「遺愛」の名称が使われるようになったのは、1885年(明治18)文学者の内藤鳴雪が考案したもので、漢籍の「古の遺愛也」に因みます。

遺愛は、英語で表現すると「Remembrance of Love」となり、「神の愛と主の恵み、そして創立者の愛を後世に遺し伝える」という意味を表わしています。

建学の精神

遺愛学院の教育は、
キリスト教の信仰に基づき
神の前に誠実に生き、
犠牲と奉仕の精神によって
すべての人に仕え
神と人ともに愛せられる
人間の育成を目的としています。



遺愛学院 校章・マーク
ミス・デカルソンが世に紹介したスズランの花が垂れ下がる様子は謙遜を、花の白は純潔を、囲む円は人格の円満を表わしています。

学校法人 遺愛学院

〒040-8543 北海道函館市杉並町23-11

TEL: 0138-51-0418 FAX: 0138-51-7150